

作品紹介

一・松永智子

臨書 行書 董其昌 『風図詩卷』 全紙

「玉書金簡不足異。布帛菽粟眞文字。委婉驚開先代藏。詩中陣盡繪農双衆事。憶昔。」

初夏書展に引き続き、董其昌の臨書に挑戦しました。一字と全体のバランスについて、深く考えさせられました。美しく鋭敏な彼の書は、見るものを捉えて離しません。明の文人董其昌を、私の、書における軸にできたらと思っています。

二・稲留直子

臨書 隸書 『乙瑛碑』 半切

「祠先聖師侍祠者孔子孫大宰大祝令各一人皆備爵大常丞監祠河祠河南尹給牛羊豕各一大司農」

ずっと書いてみたかった隸書に初挑戦しました。波礫に慣れるのが大変でしたが、隸書を書くのは楽しかったです。今回は字を並べることで精一杯だったので、更に練習して、次回は作品として仕上げたいと思います。

三・仲宗根咲子

臨書 草書 張瑞図 『五言律詩軸』 半切

「時出碧鷄坊西郊向草堂市橋官柳細江路野梅香傍架齋出秩看題滅葉囊無人覺來往嬾」

字の癖が自分と全然違うので難しかったです。いろいろ考えすぎて結局崩壊した気がします。

玉書金簡不足異
布帛菽粟眞文字
宛驚開先代藏
繪農双衆事
憶昔

時出碧鷄坊西郊向草堂市橋官柳細江路野梅香傍架齋出秩看題滅葉囊無人覺來往嬾

四・大石雅典

臨書 篆書 『石鼓文』 半切

「汧殽沔丞皮淖淵 鯉處之君子漁之 又小魚其序 帛」

篆書の絵的なおもしろさに惹かれて始めて書いてみました。楷書などとは筆順や筆使いが違うので戸惑いましたが、これを練習したおかげで新しい表現方法を学ぶことができました。ただ、ずれのないように単調に書き続けるのは骨が折れました。



五・河野宏明

臨書 行書 王羲之 『蘭亭序』 半切

「敘幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰歡宇宙之大」

書道歴はまだ半年と短いのでまずは模範的な作品を臨書しようと思いい『蘭亭序』を選びました。細かな筆使いなどは一朝一夕では身につかないので、今回は文字のバランスを一番に気をつけました。ただ、まだ蘭亭序の深み、良さが理解できず練習の途中で飽きがきてしまったので、次回は気に入った作品を臨書しようと思います。

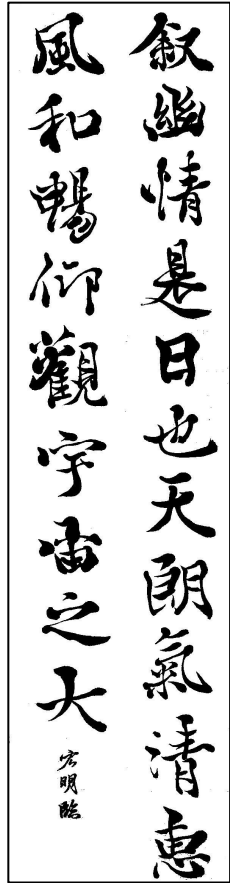
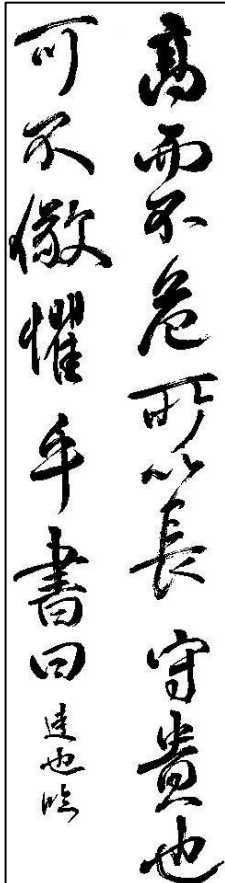
六・上原達也

臨書 草書 顏真卿 『争座位帖』 半切

「高而不危。所以長守貴也。可不儆懼乎。」

久々の作品制作となりました。顏真卿らしい線の強弱に気を使いながらも、文字の配置や大きさのバランスなどに最初は上手く気が回らず苦労しました。

筆は最初羊毛を使用しておりましたが、上手くその特性を生かすことが出来ず、イタチの毛に切り替えてみました。ご批評のほどよろしくお願いします。

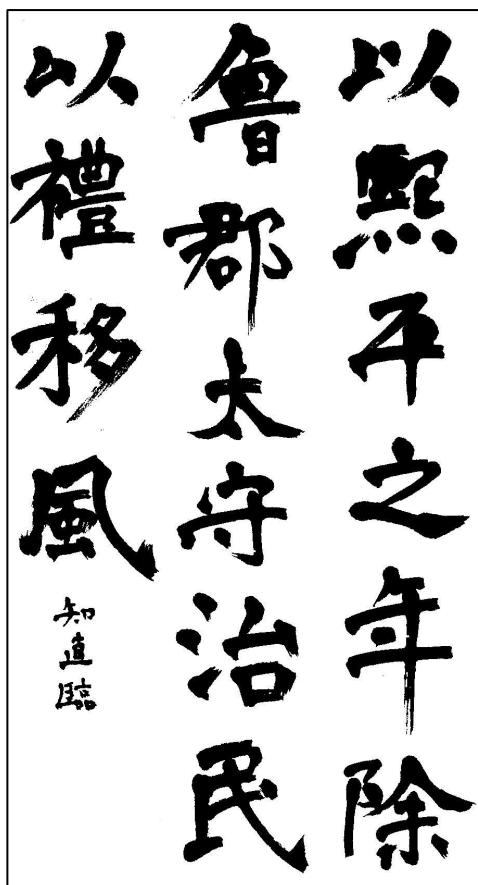


七・廣島知直

臨書 楷書 『張猛龍碑』 全紙

「以熙平之年除魯郡太守治民以禮移風」

2年前に挑戦した時は凡そ齒が立たなかった張猛龍碑に、今回再び挑むことにしました。動的な均衡による独特の字の構築と、鋭い切れ味の線質の表現を心掛け、文字配置にも面白みを持たせるため試行錯誤を繰り返しました。生命力溢れる書の世界を感じていただければ幸いです。



八・東恵理子

創作 隸書 『いろんな君』 約50 cm×60 cm

「君・君・君」

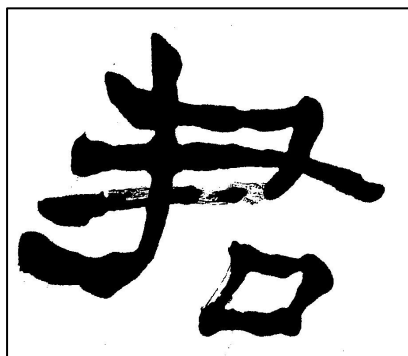
同じ君。でも、「いろんな君」がいる。

ひとつ、二人きりじゃないときの外の君、ちよつとだけシヤキツとしてる。

ふたつ、ちよつとワガママな君。投げやりーな感じ。

みつ、自然体で包み込んでくれる君。落ち着く。

どれが、どの君でしょう？



九. 河合直樹

臨書 楷書 褚遂良『雁塔聖教序』 全紙

「百福而長今妙道凝玄遵之莫知其際法流湛寂」

この古典は楷書であるにもかかわらず、一点一画が絶妙なバランスを保っていることで、行書的ともいえる流麗さを備えていると思います。作品制作にあたっては線質にこだわり、奥深い書になるように心掛けました。ご批評の程よろしくお願い致します。

百福而長今妙道
凝玄遵之莫知其
際法流湛寂

十. 白田全弘

臨書 行書 王鐸『行書五律五首卷』 半切

「浦雲能自暇逾與道情親況坐聲光裏高閒似」

宴席で書かれたとされるこの五首巻には、かすれを構わず筆を進めているところが多々見られます。その豪快さに惹かれ今回臨書に挑戦してみたのですが、一字一字の字形に気をとられるあまり全体のバランスが悪くなってしまったので、次回からは気をつけようと思います。

浦雲能自暇
逾與道情親
況坐聲光裏
高閒似

十一. 宮原正明

臨書 隸書 鄧石如

『隸書崔子玉座右銘』 半切

「無道人之短無說己之長施人愼勿念受施愼勿忘世譽不足慕惟人爲紀綱隱心而」

久しぶりに筆を握りました。一つの作品を作り上げるといいうしんどくも楽しい過程をまた味わうことができ、やっぱりやってよかったです。

無道人之短無
說己之長施
人愼勿念受
施勿忘世譽
不足慕惟人
爲紀綱隱心
而

丙戌秋正明臨